

「ヘルメット、被って」

(紀の川市優秀賞受賞)

荒川中学校 2年 永長 そら

「自転車に乗るときは、ヘルメット被っていきなさいよ。」といつも母に言われている。中学校に入学してから、自転車通学になったこと、部活動でよく自転車に乗るようになったことから、ヘルメットの着用が母との約束になった。改正道路交通法の施行により、令和5年4月1日から全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化された年のことだった。自転車乗用中の交通事故で亡くなった人の5割は頭部に致命傷を負っているそうだ。早速私の家では、家族全員分のヘルメットを購入することになった。しかし、努力義務というのは日本の法律上「～するように努めなければならない」ということだった。だから、正直に言うのとどちらでもいいんじゃないかと思っていた。でも、母は「被っていきなさい。」と言う。友達と約束しているのに走っていくわけにもいかない。「髪の毛崩れるな……。」「ヘルメット被らなあかんのかな。」と心の中でつぶやく。でも、もう時間がないので「髪をヘルメットで抑えてくれて、向かい風で崩れるのを防いでくれる!」と前向きに考えることにした。この時は、「ヘルメットを被らなくていいなら極力被りたくない!」「努力義務化されたけど、被ってない人いっぱいいてるやん。」というのが私の本音だった。

ゴールデンウィークが始まる前、「挑戦しに行こう。」と、父が声をかけてきた。それは世界7大サイクリングロードに選ばれている「しまなみ海道」をクロスバイクで渡ろうというものだった。父の提案で、愛媛県今治市から広島県尾道市までのおよそ70キロメートルをまさか自転車で走ることになるとは思ってもいなかった。過酷なサイクリングを想像していたが、最高の天気と素晴らしいロケーションの中、瀬戸内の島から島へと無我夢中になって自転車を走らせた。さすが世界7大サイクリングロードなだけあって海外から来ている人も多かった。過酷な上り坂の後、橋を渡ったら次は下り坂。下り坂は漕がなくていいので楽に進むことができる。その上、風を感じられるし、スピードを出して進めるので楽しかった。後で父に聞くと、最高速度は時速35キロメートルにもなっていたそうだ。それを聞いて冷とした。原付バイクや自動車並みのスピードで下り坂を進んでいたなんて……。あのスピードで下っているときに「反対車線の人とぶつかっていたら……。」と考えると、無事に帰宅できている今、家族みんなが事故に遭わなくてよかったと心の底から感じている。

私の住んでいる街にも狭い道がたくさんある。急いでいるときや、坂を下っているときはスピードが出ていることがあるかもしれない。小さな子供やお年寄

りの人が、いつどこから出てくるか分からないと考えたとき、中学校1年生の頃から仕方なく被っていたヘルメットが、急にすごく大切なものに思えてきた。調べてみると、和歌山県のヘルメット着用率は令和5年10月23日現在で12.6パーセントと非常に低いと分かった。全国的にも13.5パーセントとあまり変わらなかった。ヘルメットの未着用は、自動車のシートベルトのように違反処分を受けることはないが、自動車のボディのような守ってくれるものもない。もしも、あのとき、時速35キロメートルという速さで歩行者や自転車と衝突してしまっていたとしたら、自分の命だけでなく、相手の命を奪うことにもなりかねない。そう考えると、頭部を守ってくれるヘルメットの重要性を重く感じる。だから、日本中のみんなにも、ヘルメットを被ることの大切さを考えてほしいと思う。私は日本中のみんなが楽しく安全に過ごせるように伝えたい。「ヘルメット、被って。」と。

